

第68回（令和4年2月）文章入力スピード認定試験（日本語）問題

あなたは、わが国で最も面積の広い市はどこか知っていますか。それは岐阜県の高山市 40
 です。ここは今もなお、古くからの町並みが保存されている美しい土地です。その景観は 80
 国内だけでなく海外からも高い評価を得ているといえます。また、冬の寒さが厳しく雪が 120
 たくさん降る地域でもあります。この辺りは、北アルプスなどの山々に囲まれており、木 160
 材をはじめとするさまざまな資源が豊富だったことから、江戸時代には幕府が直接管理を 200
 するエリアとなっていました。木々に囲まれて暮らすこの地方の人々は、昔から優れた建 240
 築技術を持っており、現在に至るまで、たくさんの素晴らしい建物を世に生み出してきま 280
 した。豊かな自然に育まれた木を生かす技、その感性や実直な気質を持った職人たちが手 320
 掛けたものは、数々の寺院などの歴史的な建物はもちろんですが、工芸品にまで及びまし 360
 た。彼らはあらゆる木々の特性をよく知っており、何を作るときにはどれが適しているの 400
 かを見極め、その美しさを引き出す技を持っているのです。 428

さて、この地方の家は、屋根が低いというのが特徴的です。雪がたくさん降る地域とい 468
 うこともあり、その重みから守るためにこのような造りになっているといえます。また、 508
 その角度も緩やかで雪がすべり落ちないように配慮されています。こうした、寒いエリアな 548
 らではのさまざまな工夫がなされ、機能的な住まいが造られてきたといえます。 585

さらに、実用性だけでなく、装飾性も兼ね備えているという点も特筆すべきでしょう。 625
 市街の建物を見てみると、屋根を支える部材に、雲の彫刻が施されているのが確認できま 665
 す。これは、この地に立ち並ぶ日本家屋の多くに見ることができます。もともとは神社や 705
 寺などに用いられた技術でしたが、一般的な住宅にも使われるようになっていきました。 745
 よく見てみると、どれも少しずつ形が異なります。職人たちがそれぞれ、自分が手掛けた 785
 建物に同じデザインの彫刻を施すことで、誰が建てたものか分かるようになっていたとい 825
 います。そこが腕の見せ所でもあったのでしょう。太く黒い柱に支えられた住宅たちは、 865
 彼らの展示会でもあり、その技を発表する場にもなっていたのです。そんな視点で眺めて 905
 いると、競い合いながらお互いの力を高め合ってきた職人たちの姿を想像することができ 945
 て、さらに違った楽しみ方ができます。 964

また、この地方に伝わる木を生かした技術を結集させた、国指定の伝統的工芸品があり 1,004
 ます。それは、木目が美しく、時間の経過とともに茶色く変化してつやが出てくるイチイ 1,044
 の木を材料として、着色などをせず、彫刻の技のみで表現する作品です。幹が白い部分と 1,084
 赤い部分にきっちり分かれているため、その色合いをそのまま生かし、余計な彩色は一切 1,124
 行われません。それだけに、作り手の力量が試されるのです。これは江戸時代の終わりご 1,164
 ろに活躍した職人たちによって、芸術の域にまで高められたものだといえます。今では、 1,204
 根付けや置物、茶道具など、さまざまなものが制作されています。使えば使うほど、時間 1,244
 がたてばたつほど深みが増し、使う人を飽きさせない独特の味わいがあるのです。 1,282

年配層に人気があるとされていた落語ですが、最近では若い世代から注目されることも 1,322
 多くなってきています。日本の伝統芸能といえば、歌舞伎や能、狂言などが代表的な例と 1,362
 して挙げられますが、それらと比較しても、ファンとなる人々の増加率が高いのだとい 1,402

ます。時代を経ても受け入れられるその魅力とは、どのようなものなのでしょうか。	1, 441
まず、何よりも特徴的なのは、演じる者がたった1人ですべての役をこなすということ	1, 481
でしょう。子供からお年寄り、男と女、時には動物に至るまで、声色やしぐさによってさ	1, 521
まざまな役を表現します。それらに合わせて衣装を変えることはなく、特別な舞台装置も	1, 561
ありません。座布団の上に座っているだけで、小道具は扇子と手拭いのみです。ここまで	1, 601
シンプルなスタイルは、世界を見ても他に例がないでしょう。では、わたしたちはどこに	1, 641
面白みを感じて引き込まれていくのでしょうか。	1, 664
歌舞伎などの芸能では、役柄通りの服にメイクやかつらを用いるなどの要素が盛り込ま	1, 704
れるので、観客は見たままに解釈することができます。ところが落語の場合は、演者が技	1, 744
巧を凝らして身ぶり手ぶりで表現をしてその者になりきって話します。その際に、扇子で	1, 784
表現されるのは、はしや釣りざおといった分かりやすいものから、刀などの視線を使って	1, 824
長さを観客に伝える手法が必要なものもあります。もう一つの小道具である手拭いは、本	1, 864
や財布など、幅や広さのあるものに化けます。また、丸めて野菜にしたり頭の上に載せて	1, 904
木の葉を表現したりと、工夫次第であらゆるものに変化します。聞き手は、それを頭の中	1, 944
で想像してすべての場面や登場人物、背景などを考察し、物語の全容を理解します。つま	1, 984
りわたしたちは、目の前で舞台を見ながら同時に自分の頭の中で映像を作り上げて楽しん	2, 024
でいるのです。話し手の語りや動きに同調していくため、一体感が高まり、さらに感情を	2, 064
揺さぶられるのでしょうか。	2, 077
この起源とされるものは、既に平安時代や鎌倉時代の説話集に見受けられ、それらの中	2, 117
には、寺の僧が説教を語る際に用いられた話もあるといいます。安土桃山時代には、大名	2, 157
に仕えて、話し相手になったり、世の中がどんな動きをしているか、町で流行しているも	2, 197
の何かといったことを報告したりする役割が登場します。その中に、幼いころから聞き	2, 237
覚えた面白い話を集めて本にした人がいました。これらのほとんどの話には、最後を効果	2, 277
的に結ぶ「オチ」があり、これが現在の落語の母体となっているといわれています。そし	2, 317
て、それが芸として完成された形で披露されるようになり、人気の落語家も登場するよう	2, 357
になります。そこから、流行が下火になることもありました。江戸時代後期になると聴	2, 397
衆を集めて席料を取る興行が始まるほど復興します。	2, 422
さらに、大正から明治にかけては、レコードの発達によって人気を得るようになった落	2, 462
語家も登場し、ラジオでも放送されるようになり、さらに注目を集めるようになります。	2, 502
戦時中には一時的に停滞したものの、戦後には再び人気を取り戻しました。新たに登場し	2, 542
たテレビでの活躍も目覚ましく、落語ブームを巻き起こします。その後、大衆の好みの多	2, 582
様化とともに、流行は去ったものの、時代に合わせて変化を遂げ、今もなお根強い人気	2, 622
があります。老若男女問わず楽しめる芸として、人々に愛され続けていくでしょう。	2, 659